

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KBC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
WORLD CRYSTAL

本田鉄工株式会社

Quantum
タイヤカーデンズ

Blue Goats
Capital

RACING PROJECT
BANDO

2023 シリーズ開幕 『スタートから順位をあげるものの、後半は天候に左右され 9 位に』



シリーズ名 : 2023 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2023 AUTOBACS SUPER GT Rd.1 「OKAYAMA GT300km RACE」

レース距離 : 1 周 3.703km×82 周 (303.64km)

4 月 15 日 (土) 天候 : 雨 / 路面 : ウェット

4 月 16 日 (日) 天候 : 雨 / 路面 : ドライ→ウェット

4 月 15 日 (土)

公式予選 : GT500 クラス 5 位 : 1:30.322

2023 年の SUPERGT 開幕戦は岡山国際サーキットでの開催となった。

TEAM WedsSport BANDO の今年のドライバーラインナップは八年目のベテラン 国本雄資選手と二年目となる阪口晴南選手でコンビを継続、昨年成し遂げる事ができなかった表彰台の頂点目指して、シーズンオフの横浜ゴムのタイヤテストの成果を見せる時が来た。

午前中の公式練習では、上がらない気温と路面温度の中、二度の赤旗中断後の公式練習短縮となったが、19 号車はレインタイヤの確認を中心に若干のセッティング試しつつ、12 週の走行にてトップ



と 2 秒差の 9 番手となった。

午後 2 時からの予選は天候を考慮し、各セッションの持ち時間が 5 分延長される事となったが、気温／路面温度が 13／14 度と低く、雨量も午前中の公式練習以上となり、300 クラスのグループ A の Q1 中に赤旗中断後に途中終了。グループ B の Q1 も開始時間が後ろにずれていくこととなる。

予定より開始時間が遅れた 500 クラスの Q1。19 号車のアタッカーは国本選手。各車 Q1 開始直後にコースイン。路面はウェットだが、雨は 300 クラスの Q1 途中から上がり、500 の Q1 の間は雨雲がコースにかからない予報であり、周回を重ねる毎に路面状態が良くなると見られ、それがタイムに反映される事となる。

国本選手は、15 分間の予選を目一杯使い、残り 2 分半で 1:30.972（暫定 9 番手）のタイムを出すと、残り 1 分でさらにタイムを上げ 1:30.569

（暫定 8 位）を、残り 1 周でタイムをさらに上げて 1:30.445 を出し、暫定 6 位に入る。後に他車のタイム更新に伴い、Q1 順位を一つ落とすものの、7 位にて Q1 を突破する事となった。

Q1 の結果は 23-100-64-3-37-14-19-8 -

（以上予選通過）-16-36-24-1-17-38 となった。

Q2 のアタックドライバーは阪口選手。

国本選手からのフィードバックを元に国本選手とは違うタイヤでアタック開始。

なかなか温まらない中、暫定 8 位のまま走行を続けていたが、残り 1 分で暫定 6 位にタイムを上げると、最終ラップで 1:30.322 をだし、暫定 5 位を獲得。

そのままチェッカーを迎えて Q2 を 5 位にて終えることとなりました。

Q2 の結果は 23-3-64-14-19-37-8-100 となります。

明日の決勝は天候が全く読めない状況です。レース展開も予想はつきませんが横浜タイヤと共に 19 号車は 3 列目から表彰台を目指して爆走していきます。皆様のご声援、宜しくお願いいたします。





予選コメント

【坂東監督】



『今年から新しいウェットパターンを採用致しました。シーズンオフに横浜ゴムと共に開発してきて、事前の合同テスト富士ではウェット路面で良い結果だったのでウェットタイヤでの予選はコース特性に合うか？他メーカーと比べてどのポジションにいるか？とても気になる予選でした。結果国本選手は7位(雨量多め)阪口選手は国本選手と違うコンパウンドを使い5位と横浜ゴムの良いところを引き出せた予選でした。昨年から進化は凄いと感じました。昨年は菅生で苦労した結果だったので、、、』

もちろん課題は沢山ありますがマシンのセットアップ、内圧などをもう少し煮詰める事が出来ればまだまだ伸びしろもありますし、富士と岡山のコース特性を理解した上で開発を進めればもっと上位に食い込めると期待できる部分を感じた予選でした。

二人のドライバー、チーム、横浜ゴムで開発してきたタイヤで結果を出す事が出来たので横浜ゴムさんの今後に期待してください。TGR チームでは2番ですし、4つのタイヤメーカーが5位までに入っているリザルトを見ると今年も混戦のような気がします。』

【国本選手】



『予選終わりました。結果は5番手でした。久々の Super GT のウェットの中の予選で、Q1 は自分が走ったんですけども、何とか最後の最終ラップでタイムを更新して、Q2 に進むことができたので、すごく満足いく予選となりました。そのあとの Q2 も晴南くんしっかりやってくれて、5番手というポジションを獲得することができました。明日はすごく重要なレースになると思うので、しっかりと5番手から追いつけていいレースができるように頑張りたいです。応援よろしくお願いします。』

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

DIESEL AID

FUJITSUBO

BRIDE

宮田自動車商会

WellVets

Animal Welfare Group

KDC

GLOBAL

本田鉄工株式会社

Q-jawet fire

Blue Goats

RACING PROJECT
BANDOH

【阪口選手】



『岡山開幕戦予選終わりました。5番手ということで、非常にいい位置をウェットの中でゲットできたかなという風に思います。Q1は国本さんに担当していただいて、難しい中だったんですけど最後の周タイム上げてくれて、なんとかQ1突破してくれて、それがすごく大きい仕事だったかなという風に思います。そのあと僕は今年いろいろ試行錯誤して持ち込んでくれたタイヤでQ2アタックさせてもらって、まあちょっと温まり切らずにという残念な部分はあるんですけど、決して悪くない位置なので、明日また天候が微妙で荒れそうですけども、しっかり自分たちがやれることをやって、上位でゴールできるようにがんばりますので応援よろしくお願いします。』

4月16日(日)

決勝 9位

昨日の予選時とは違って変わり、晴天の岡山国際サーキット。とはいえ、天気予報ではレース中に降雨が予想され、どう展開していくかが読むことが出来ず、波乱のレースの幕開けとなるのか。

スタート前に航空自衛隊のF15戦闘機 2機によるウェルカムフライトが行われ、レースに華を添えた。スターティングドライバーは国本選手。

午後1時半、岡山県警のパトカーを先頭にパレードランを1周し、さらに1周のフォーメーションラップを行い、ローリングスタートが切られた。

オープニングラップ直ぐに64号車を頭に3位争いが勃発。64号車に引っ掛かった14号車をアウトから抜き4位に、そのまま100号車をパス3位までジャンプアップし、オープニングラップを3位で戻ってきた。しかし、スタートでジャンプアップしてきた100号車が背後に付き、テールトゥノーズの争いとなるが3周目のヘアピン前で100号車がスリップからインに飛び込まれ、4位に後退する事となった。

6周目から300クラスの隊列に追いついてきたところで5位の14号車が19号車に襲いかかる。19号車は300クラスをよけつつ、後ろの14号車の猛追をかわす





という難しい走行を強いられる。

7 周目前後から雨が降り始める。9 周目ぐらいにはレースを移しているカメラにも水滴が付くようになってきた。

23、3、100 号車のトップ 3 台の争いが激化し、300 クラスの車両との兼ね合いもあり、19 号車が 10 周目のホームストレート入り口では 3 位の 100 号車の背後に付くぐらいまで追いつけてきた。

とはいえ、雨の勢いが徐々に増えてきて路面が濡れ始めてきた。12 周目には 2 位の 3 号車から 5 位の 14 号車まで数珠つなぎとなっている。

15 周目には本格的な降雨となってきた、300 クラスがピットに入る中、16 周目にトップの 23 号車をはじめとして 500 クラスの約半分がピットに入り、ウェットタイヤに交換。19 号車はそのままコースに残って周回を重ねていく事となる。

16 周目に 300 クラスがコースアウトしたきっかけに FCY が入るが、そのタイミングでさらに複数の 300 クラスがコースアウトした為、SC に変わってしまう。SC 走行中にはさらに雨の勢いが強くなってきた。19 号車はピットに入らなかったため、同じくピットに入らなかった 3 号車に次いで 2 位となる。SC 周回中も雨は強くなり、一時雹まで降ってくる状況となってしまった。

SC 走行中の 19 周目にピットオープンとなり、SC 前にピットに入らなかった 19 号車を含めた 4 台がピットに入り、19 号車はタイヤをウェットに交換してピットアウト。前にいた 3 号車をピット作業で抜きコースに復帰する。

23 周目に SC が入り、レース再開。雨は上がったが路面は濡れでウオータースクリーンが上がる中、19 号車は 24 周目で順位は 12 位。26 周目には前の 38 号車をパスし 11 位に上がるが、28 周目に 1、3 号車にパスされて 13 位に後退する。

31 周目になると再び 300 クラスの集団を 500 がパスする展開となるが、64 号車を先頭とした 8 位争いが勃発。前が詰まったことにより 19 号車はその集団に追いつくと、33 周目に 17 号車をパスして 11 位まで順位を回復する。さらに 34 周目のメインストレートで 64 号車をパスし、10 位に。35 周目に 100 号車にピットインペナルティが出たため、36 周目に 19 号車は 9 位に。さらに 37 号車にもピットインペナルティが出たため、19 号車は 8 位となる。

42 周前後でルーティンを伴ったピットインをするチームが出てくる中、19 号車はコースに留まっている。44 周で暫定 4 位まで上がると、そのままピットに入り阪口選手にドライバー交代、タイヤを替えて暫定 13 位でピットアウト。





48 周目に 300 クラスがコースアウトした為、2 度目の FCY となる。すると、サーキットに雨が再び降り出してきた。FCY 走行中に 24 号車がコースアウトした為、19 号車は暫定 12 位。

51 周目に FCY が解除されたが、直後に 300 クラスがクラッシュした為、再び FCY、のちに SC になる。(SC 周回中は 19 号車は暫定 11 位) 後にサーキット近くで落雷が確認され、55 周目にて赤旗中断となり、メインストレートに車が戻ってきた。(16 号車がピットに入ったため、19 号車の順位は 10 位。)

SC 走行再開後、1 周で戻ってきたスリックタイヤ組が一斉にピットに入り、19 号車もそのタイミング(56 周目)でピットイン。暫定 10 位で復帰するものの、SC 周回中に 36 号車がトラブルで、コース脇に止まりリタイヤ、さらに 300 クラスの車両トラブルもあり、SC の周回が続き、61 周目で再び赤旗中断となる。

レースの最大延長が 4 時半となり、残り周回 2 周でレースがフルポイントで成立となる為、4 時 15 分に周回遅れの車両を先行させ、隊列を整え、4 時 20 分に SC 先導でのレースが再開された。しかし、降雨状況が改善されたわけでは無く、またコース上で 300 クラスの車両が止まってしまい、さらに落雷が発生したため、最大時間の 4 時半を待たずにフルポイント成立の 62 周を持って赤旗が出て、そのままレースが終了。そのままチェッカーとなりました。19 号車は 10 位にてチェッカーを受けることとなりました。後に 16 号車にペナルティが出て 9 位になりました。

レースは天候が目まぐるしく代わり、2 度の赤旗中断など波乱の展開となり、順位は目まぐるしく変わる中、2 度目の前の FCY のタイミングでピットに入った 23 号車がトップとなり、そのままチェッカー。以下 3-8-14-38-1-17-39-19-64-16-100-37-24-36 (16, 24 号車の未ペナルティ消化による順位反映)となります。

レースは 9 位入賞とポイントを獲得する事が出来ましたが、次戦の富士では表彰台を目指し、爆走していきます。

皆様の応援、誠にありがとうございました。

決勝コメント

【坂東監督】



『ポイントを獲得したのは良かったですが満足はしていません。戦略次第では表彰台を獲得できたと思うのでドライバー、チーム、スポンサー、ファンの皆様には申し訳ありません。二人のドライバーは良く頑張ってくれました。エンジニアと伝達事項を次戦より、強化して望みます。オフィシャルの皆様もありがとうございました。この 2 ポイントが今後生きるように次戦以降全力で戦います。応援ありがとうございました。』



【国本選手】



『決勝 9 位でした。

天候がコロコロと変わり難しいレースとなりましたが、昨シーズンの課題であったタイヤの温まりやウェットのパフォーマンスはかなり向上していて、ライバル勢と争う事ができました。

パフォーマンスだけだともう少し上位でゴール出来ていたレースだと思うので、今後はもっとチームとコミュニケーションをとり、最善な作戦で戦えるように準備していきます。』

【阪口選手】



『決勝 9 位でした。

とても荒れたレースとなりましたが無事ゴールできました。レース内容としてはスタート後のペースや、後半のペースなどが昨年と比べて良くなりました。ただ一瞬の判断でポジションを失ってしまうことがあったので、そこが今回の反省点だと思います。

次似たようなシチュエーションになった時、しっかりと正しい判断ができるようミーティングを重ね、頑張りたいと思います。』

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDOH

<http://www.bandohracing.com/>